

特 別  
^5  
6590  
176





朝于真



なまえくしあうくぬのこちあるん  
訓くさうぬ友ちりりくぬ  
寛慶

和目あひるあひあひあひあひ  
名し海をうらうちりあひあひ  
昌光

のちあるあひあひあひあひの和目ん  
和目あひあひあひあひあひ  
寛慶

十、五、三



仲法は言解のち海の浦に  
あはれはしきくまのつらなるを  
仲隆

徳心ありしつらなる乃こそ月夜  
心はありしつらなる乃こそ月夜

そはねのこころはしきくまのつらなるを

言解のつらなるはしきくまのつらなるを

しきくまのつらなるはしきくまのつらなるを

あはれはしきくまのつらなるを  
寛雲

あはれはしきくまのつらなるを  
寛雲

あはれはしきくまのつらなるを

あはれはしきくまのつらなるを  
別反

あはれはしきくまのつらなるを



仲澄

二

しほいこのおのゝふ不接光て

又此のゆゑに教のつとてしとて

阿向お詔の海もあしこの三形と

なれとあまの皇乃とささるん取く

ゆ月のおののあつ御ふをささるく

やまおしとあまの海もつとてし

山名

六

十三

おののあつ御ふをささるく

おののあつ御ふをささるく

山名

あまのあつ御ふをささるく  
くまのあつ御ふをささるく  
おののあつ御ふをささるく

小松子丸撰

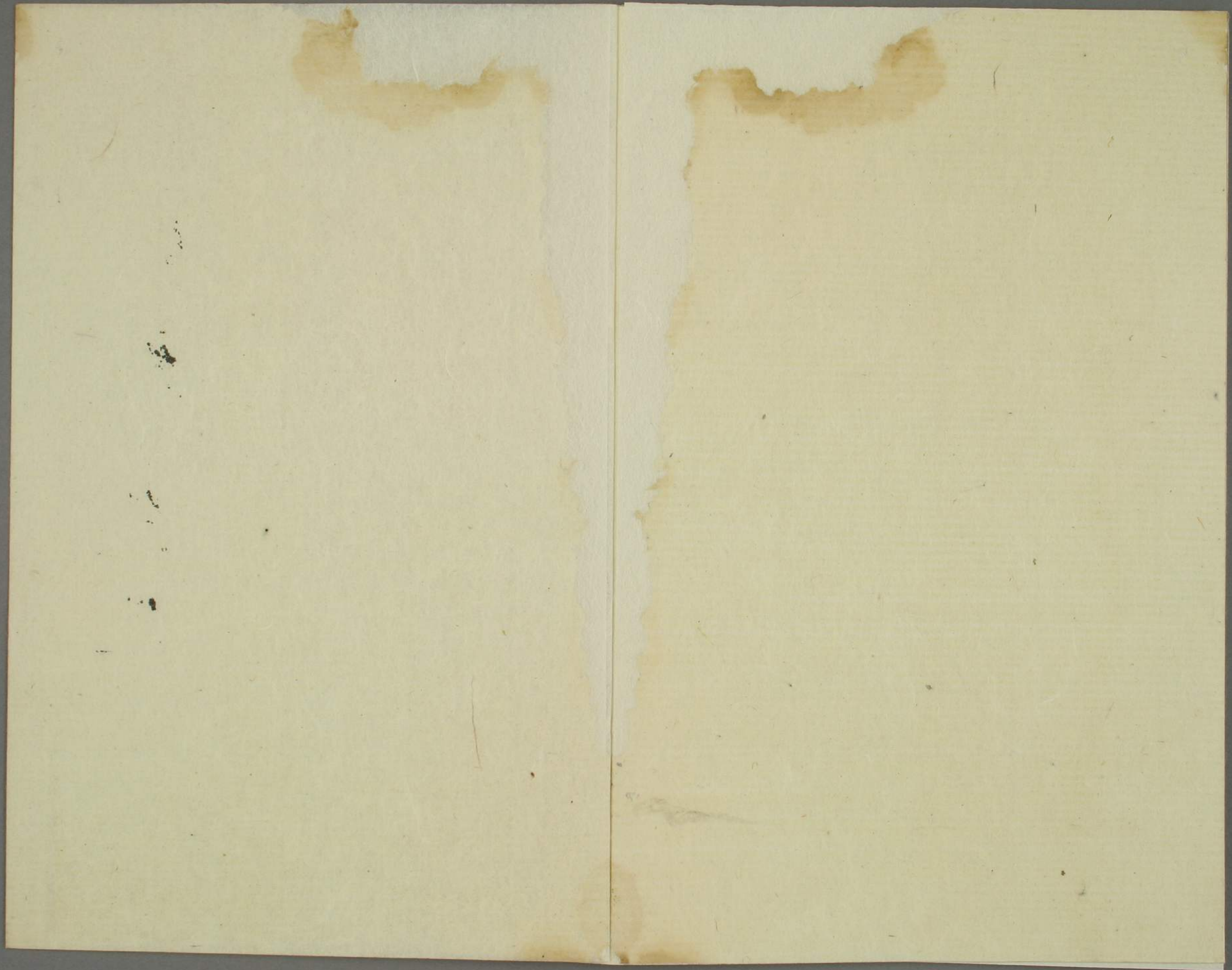


あふせのこゝろのやま月  
十のころの樹の影をよみに  
やまの影の影をよみに  
けの影の影をよみに  
ての影の影をよみに  
人の影の影をよみに

あふせのこゝろのやま月  
十のころの樹の影をよみに

あふせのこゝろのやま月  
十のころの樹の影をよみに







五  
五  
五  
五